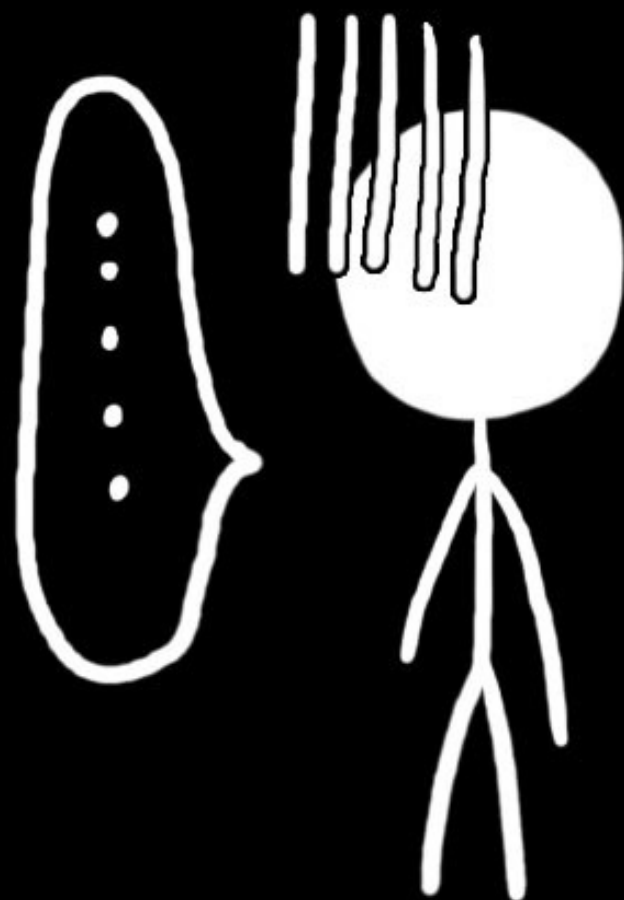


結婚しないという

微妙な生き方

2



人間の心とは弱いものである。どんなに、結婚せずに生きていくという確たる信念を抱いていても、ふとした瞬間にそれが揺らぐことがある。例えば、子連れの幸せそうな夫婦を見たときなんかである。そういうとき、ああ、自分はもうあんなふうにはなれないのだ、という不安がよぎったりするのである。そしてこの不安はほうっておくと、自分は幸せではないのではないかと→幸せになるには結婚しなければならない→しかし結婚したくない→結婚しなければ幸せになれない→では自分は幸せではないのではないかと→幸せになるには結婚しなければ...というように、思考が負のスパイラルに陥ってしまう。そしてこのスパイラルは、一巡するたびに、より自分がダメな人間、社会的に不適合な人間に見えてくるという、大変恐ろしいものなのだ。

この負のスパイラルは、しかしなかなか止めることが出来ない。趣味や仕事で楽しく忙しい生活をすることによって自分をごまかすことは出来るかもしれないけれど、それでもこの不安は常によぎる可能性がある。つまりこの不安は、生活の充実度とは別次元の不安なのである。

そこで、もしそういうスパイラルに陥った場合、改めて自分は結婚したいのかと自問自答し、もし、結婚したいかもしれない、という結論が出た時は、早めに行動に移すことをお勧めする。しかしそうでない場合...すなわち、それでも結婚する気にはなれない、という結論が出た場合、必要なものがある。それは、よりどころである。

ここでいうよりどころとは、結婚しない一人身の生活を満たしてくれるもの、という意味ではない。そんなもの - 例えば結婚以上に楽しい趣味だとか、結婚など考えられないくらい忙しい生活だとか - は、むしろ既にあるからこそ、結婚しない、という信念に繋がっているはずだからである。

だからそうではなくて、私が必要だと思うのは、結婚せずに生きていくという信念を支え、時として生まれるこの信念に対する疑いや不安を払拭してくれるようなよりどころである。言い換えると、前述の負のスパイラルを止めてくれるようなよりどころ、ということである。

ところが、このよりどころというのがなかなか見つからない。いや、それらしきものは見つかるのだけれど、最終的にはよりどころになりそうでならないものが意外と多いのだ。

例えば、自分よりも高齢で未婚の俳優や有名人をよりどころにするとする。すなわち、あの人でさえ結婚していないのだから、別に自分だって結婚しなくても良いのではないかと、というふうに思考のよりどころにするわけである。最初のうちは、それで気が楽になるかもしれない。しかし、あることに気付いてしまった私にとってはもはやこういった人たちはよりどころにはならない。

何に気付いたか。それは、未婚の俳優や有名人は、有名だったりお金持ちだったり、結婚していない代わりにものを得ているということである。それに比べて自分はどうか。しがないサラリーマンである。結婚していない代わりに得ているものはあるのか。そんなふうに考え始めてしま

うと、彼らはもはやよりどころになるどころか、劣等感を感じさせられる対象となってしまいうのである。

では例えば、マンガやアニメ、ドラマなどに出てくる、未婚の登場人物をよりどころにするのはどうか。これはある程度は有効であり、私もずいぶんと利用させてもらった。一番よりどころになったのは、33歳にもかかわらず、定職も持たずに兄の家に居候している探偵である。彼と自分を比べると、結婚していないところは同じだけれど、私は一人暮らしだし定職にもついているから私の方がずいぶんましに感じられる。すなわち、良いよりどころだったのだ。しかし彼ももはや私にとってはよりどころではなくなった。なぜなら、私の方が彼よりも高齢になってしまったからである。そう、つまり、アニメや漫画、ドラマなどの登場人物をよりどころにする場合、彼らは永遠に歳をとらないということを忘れると痛いしっぺ返しを食らうことになるわけである。

なお、通常の連続ドラマの登場人物は大抵はみんな歳を取っていくけれど、そこに出てくる未婚の登場人物をよりどころにするのは避けたほうが良いだろう。たいていそういう登場人物は、3ヵ月後には幸せになっているからである。

それでは例えば、同年代の未婚の友人をよりどころにするのはどうか。これも、最初のうちはかなり利用できる。自分の友人程度なら、結婚していない代わりに何かを得ている、というレベルまで成功している人はあまりいないだろうからだ。同年齢ではなく、自分よりも少し年上の友人だとなお良い。お互いに結婚していないけれど自分の方が若いからまだ何となく自分のほうがましだ、と思えるからである。

しかし、侮ってはいけない。友人をよりどころにするのは、ある意味前者2つよりも危険である。それは大抵、友人というものは自分より先に結婚してしまうものだからである。例えばもてなさそうな友人を見て、この友人は性格に問題があるからきっと一生結婚できない、だから一生私のよりどころとなってくれるはずだ、なんて思っていたら手痛いしっぺ返しを食らうことになる。意外とそういう人は早く結婚してしまうのだ。そしてその日は突然訪れるものだから、あまりによりどころとして頼りすぎているとショックも大きい。実際、私がよりどころとしていた友人はいきなり結婚して私に大いなるショックを与えたのだ。

と、このように、一見よりどころになりそうなものにならないものが非常に多いのである。一時的によりどころとなるものはあっても、それは永遠ではない。いつかよりどころでなくなる日が来る。だからそのたびに、負のスパイラルに備えて新しいよりどころを探さなければならない。

おそらくこれは、結婚しないという自由な人生を送ろうとする人に課された一つの試練なのではないだろうか。そのように考えると、結婚しない人生というのは、よりどころを求めて彷徨う永遠の旅人のような人生なのかもしれない。